

令和3年度「全国いじめ問題子供サミット」(ZOOM開催)

■ 趣旨

いじめ防止に向けて主体的に取り組んでいる県内児童生徒の代表が、オンラインで全国の参加者と交流することを通して、他県の実践に学び、本県の「いじめゼロ」の取組の一層の推進を図るとともに、サミット実行委員のリーダー育成を図る。

■ 事前打ち合わせ(令和4年1月8日(土)天神前分庁舎8F第1会議室)

全国サミットで、香川県サミットの取組みと学校の取組みについて、プレゼンテーションするための準備を行いました。

1 香川県サミットの歴史について(※1サミットの歩み参照)

香川県サミットの過去4回の取組みを振り返り、伝統的に児童生徒自身による自治的主体的活動であることと、4層構造で一番人数の多い傍観者の正義感や勇気に訴えることを大切にしてきたことを確認しました。



【サミットの歴史をまとめるようす】



【いじめの4層構造】

2 「いじめゼロ子どもサミット2022」実行委員養成セミナーのまとめ

全国サミットで紹介するため、本年1月6日のいじめゼロ子どもサミット実行委員養成セミナーで話し合った「いじめアンケートの工夫」「教科の力をいじめゼロに活用する工夫」について資料を作りました。

※ いじめゼロ子どもサミットは、2009年より3年に1回開催されている。サミットを開催しない間の2年はサミットの企画・運営に携わる実行委員を養成するため、セミナーを実施している。



【セミナーの内容をまとめるようす】



【全国サミット発表資料】

○「全国いじめ問題子供サミット」当日の様子（ZOOM開催）

- 1 日時 令和4年1月22日（土） 10:00～16:30
- 2 場所 坂出市立坂出中学校

(1) グループ協議「コロナ禍の学校生活で、私たちが感じた思い」

全国からの参加者が20のグループに分かれ、コロナ禍による人と人との関わりの変化について話し合いました。そして、グループ毎に「どんな時でも、誰に対しても私たちが大切にしたいと感じた思い」を60秒のビデオメッセージにまとめました。協議では、「マスクで表情が読み取りにくくなった」、「友達と過ごす時間が減った」等、物理的な距離ができたものの、「SNSで連絡を取り合った」、「これまで築き上げた友情は変わらない」等、心のつながりを今まで以上に感じたようです。



【グループの司会として協議を進行】



【協議の内容をまとめて発表するようす】



【ビデオメッセージの内容を確認するようす】



【全国のなかまといじめゼロを確認】

(2) ポスターセッション「各県の取組」(※2取組紹介【香川県】参照)

本県の「いじめゼロ子どもサミット」の歴史、令和4年1月6日に行われた「いじめゼロ子どもセミナー」で話し合われた内容、及び坂出市立坂出中学校の「NOコロナハラスメント」の取組みを紹介しました。発表後は、他県から「教科の力をいじめゼロに活用できる例をもう少し紹介してほしい」「アンケートの工夫について参考にしたい」といった意見や感想をいただきました。



【フrenzジャーの衣装を着て香川県の取組みを全国に発信！】

■ 「令和3年度全国いじめ問題子供サミット」参加者振り返り

- ★ 全国いじめ問題子供サミットに参加して、他県の活動や、それにかかる想いを知ることができて、とてもよい経験になりました。また、他県の人とつながることができてとても楽しかったです。ゲストの影井ひなさんの実体験を聞き、いじめを行うことのひどさを改めて知ることができました。
- ★ コロナ禍で、できないことに目を向けることが多くなっていましたが、他県の発表を聞いてできることに目を向けるのが大切だと分かりました。いじめの防止は、コロナ禍でもできることの1つだと思います。全国のなかまとつながったことによって新たな取り組みについて知ることができました。
- ★ コロナ禍で変わったことは「人とのつながり」でした。人と関わる数が減って会話をあまりできないことがあったりしたため、仲のよかった子であっても会話が少なくなったという意見がありました。変わらなかったことは「前向きなところ」だと思います。行事がなくなったりしてみんな悲しいと思うのに、前向きに考えて行動することができていたと思いました。
- ★ 全国の生徒会役員の方々と関わって、すごく貴重な経験となりました。いじめという1つのことについてたくさんの意見を聞いて勉強になったし、これからのよりよい学校のためにも生かせそうだ。同じ立場の方々と雑談の中でいじめ以外の活動を聞き、全国にもたくさんのなかまがいることを実感しました。
- ★ 今回のサミットに参加して、全国の学校のいじめに対する工夫や特色ある取組をたくさん知ることができました。同じいじめゼロを志すなかまと意見交換したり、交流したりできて楽しかったです。グループで作成した動画に込めた想いが全国に広がり、より多くの人にこの活動を知ってほしいです。
- ★ 全国の学校の取組や活動を直接聞くことができ、自分たちの学校でも導入したいアイデアが発見できました。地域によって環境は様々ですが、このサミットを通じて同じ思いのなかまが増えとても楽しく有意義な時間を過ごすことができました。
- ★ 自分の県以外の活動を知ることができました。自分の県以外の取り組んでいる活動を知ることができ、参考になりました。今月の目標である「団結力」とかねて、全ての人とつながり合える活動をたくさんしていきたいと思います。
- ★ 今年はリモートでのサミットになりましたが、他県のなかまとたくさんの意見を言い合ったり、協力して動画をつくったりして、離れているけど心が繋がった気がしました。空き時間にはタブレットを活用して学校を紹介し合うことで仲良くなれ、全国に友達ができたような気がしました。
- ★ 他県の取組を聞いて「なるほど」と思う意見もあり、私たちの学校でもできることが多かったです。新しく出てきた意見を生徒会に提案していじめゼロに今よりもっと近づけるように頑張りたいと思います。

※1サミットの歩み

第1回サミット (2009)

平成21年8月24日 (月) 開催

いじめを行う者や傍観者を生まない集団づくりをめざして、児童会、生徒会を中心とした児童生徒の自発的な取組を推進するための「いじめゼロ子どもサミット」が始まる。

- キャラクター誕生
- いじめゼロ宣言作成



- 全ての小中学校において11月を強調月間として、取組を行うことを確認



教育長とのパネルディスカッション

◆強調月間取組例◆

- ・みんなで友達のいいところを見付け合おう！
- ・みんなが仲良くなるための行事を工夫する！

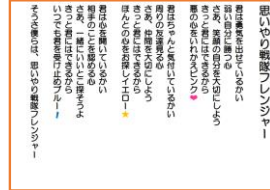
協議題 「いじめをなくすために、自分の学校でできること」

第2回サミット (2012)

平成24年8月22日 (水) 開催

「香川のいじめをゼロにするためにできること」をテーマに各校の具体的な実践の紹介を交えながら、話し合いを深めた。子ども記者会見を行い、県内外に自分達の意見を発信した。

- フレンジャーの歌を作成
- 子ども会議



- 子ども記者会見



協議題 「香川のいじめをゼロにするためにできること」

第3回サミット (2015)

平成27年8月18日 (火) 開催

「感じ、考え、行動しよう」のテーマを設定した。いじめが起りやすいシーンを演劇で再現した後、分科会において、劇の修正案を考えながら、「傍観者がいかに行動すべきか」等を討論した。

- 劇づくり
- 子ども記者会見・シンポジウム



- テーマソング「心つないで」作成



シンガーソングライターのみみかさんと共に作成。曲名は、サミット当日、「心つないで」に決定した。サミットの最後に全員で大合唱。

協議題 「傍観者がいかに行動すべきか」

第4回サミット (2018)

平成30年8月22日 (水) 開催

「『みんなで』感じ、考え、つながろう」をテーマに、地域も含め、みんなでいじめ問題に取り組むために、パレードで訴えたり、街頭アンケートで意見を聞いたりしながら、「つながる」ための方策を探った。

- 商店街でのパレード・街頭アンケート



- 参加者の心を一つに



協議題 「いろいろな立場からつながりを考えよう」

※2 取組紹介【香川県】

1、はじめに

いじめは「決してゆるされない」ことである。一方、いじめは「どの子どもにも、どの学校でも起こりうるもの」である。香川県では、この基本的な考え方に基づき、いじめの未然防止と傍観者を生まない集団づくりを目的とした「いじめゼロ子どもサミット」を開催している。ここで言う「ゼロ」とは、子どもにとっては「いじめゼロ」を目指して活動することであり、教員にとっては「見逃しゼロ」、社会にとっては「無理解・無関心ゼロ」を意味している。

2、いじめゼロ子どもサミットについて

【ねらい】

平成21年度から、3年に1度開催している。いじめに最も近く人数も多い傍観者がいじめ防止の鍵を握ると考え、いじめを深刻なものにしないための手立てやいじめを許さない正義や勇気について話し合ってきた。県内小・中学校の児童生徒が中心となって、企画から運営まで子どもたちの手で作りあげる自主的・自発的活動が、香川県ならではの特徴である。

【サミットでの主な取組（例）】

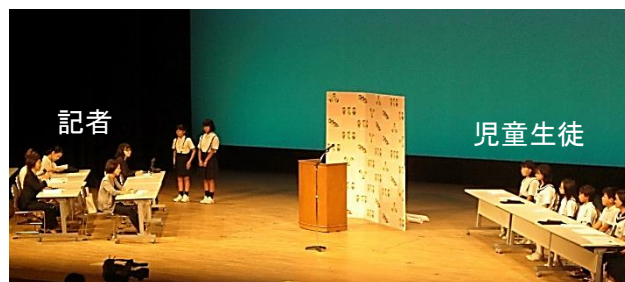
(1) いじめゼロ宣言の作成（2009）

サミットを踏まえて作られた宣言で、いじめSTOPに向けた思いが初めて形となる。今も県内の小中学校の各教室に掲示されている。



(2) 子ども記者会見の実施（2012）

「いじめゼロのためにできること」をテーマにテレビ局や新聞社を集めて、公開記者会見を行い、全国に自分達の意見を発信した。



(3) 劇づくりを通して議論（2015）

いじめが起こりやすい場面を演劇で問題提起し、分科会で劇の修正案を考えることを通して「傍観者」ができる有効な行動について話し合った。



(4) パレード&街頭アンケート（2018）

いじめ問題について、社会全体で考えるために、パレードで訴えたり、街頭アンケートで意見をきいたりしながら、その方策を検討した。



サミットのない2年間は、サミットの企画・運営に携わる実行委員を養成する「実行委員養成セミナー」を開催している。本セミナーの成果は、いじめ防止の効果的取組のモデルとして発信し、毎年11月に行っている「いじめゼロ強調週間」における各小・中学校の自発的活動へとつながり、その成果を広げている。

3、いじめゼロ強調週間について

いじめについて子どもたちが自ら考え、自分たちの手でいじめをゼロにしようとする意識を高め、自ら行動をおこす取組を、香川県内の小・中学校において集中的に実施するものである。平成 21 年の第 1 回いじめゼロ子どもサミットにおいて提唱され、現在も継続している。



各学校の取組（例）

○「問題提起の劇を見て、いじめの問題について話し合う」

いじめゼロ子どもサミット 2018 で作成した問題提起の動画や劇の台本、パワーポイント資料などを活用し、被害者、加害者、観衆、傍観者の 4 つの立場から、どのようにつながれば、いじめの問題の解決に向かうことができるか、について話し合う。いじめの問題は、一人で抱え込むことなく、みんながつながって、友達や先生、そして地域の人たちにも SOS を出しながら、みんなの問題として、みんなの力で解決に向けて取り組んでいくことの大切さについて見つめ直すことができた。

○オリジナル「コロナいじめ」防止教材の作成

本年度の「いじめ問題ワークショップ」で作成した「コロナいじめ」防止教材をもとに、生徒会を中心に自校の実態に合うように展開や発問を改良し、全校生で「コロナいじめ」を未然防止できるようにする。

○いじめゼロ宣言の採択・広報啓発

いじめゼロ子どもセミナーの街頭インタビューを通して、「自分たちのメッセージを学校外にも伝え、周りの大人も巻き込んでいじめゼロを目指したい。」という思いが生まれた。各学校においても児童会、生徒会自らが中心となり、保護者や地域に向けいじめゼロの考え方を発信した。

4、本年度の取組（令和 4 年 1 月 6 日（木）いじめゼロ子どもサミット 2022 実行委員養成セミナーより）

○いじめアンケートの工夫

香川県のいじめ発見のきっかけの中で「アンケートによる発見」の構成比が低いことに着目し、アンケートに記入できないなかまの気持ちをイメージしながら誰でも気軽に書けるアンケートの工夫について話し合った。「タブレットを使って誰にも見られずに記入する」「提出先を複数用意する」等の意見が出された。



【児童生徒の協議の様子】

○教科の力をいじめゼロに活用する工夫

香川県の強みである「学力の高さ」をいじめゼロに活用できないか話し合った。「日本以外の国々のいじめの現状や取組を知る（外国語）」「いじめに関するデータをグラフにまとめる（算数）」「いじめの歴史について調べる（社会）」等、様々な取組が提案された。



【協議内容のまとめ】



【各学校に配布した啓発ポスター】

5、おわりに

今後もこれらの取組を通して「認知なくして対応なし」を基本に、一見些細に見えるものも幅広く認知し、深刻ないじめを減らしていきたいと考えている。また、次年度は 3 年に 1 回行われるサミットの年である。セミナーで話し合われた内容を分析し、各学校での取り組みに活用できる内容を紹介する予定である。